

双六と地図帳で参勤交代を楽しく理解

佐渡市立河崎小学校 猪股快門

1 はじめに

今、4歳と6歳になる息子が楽しそうに市販の世界一周すごろく*で遊んでいます。そうです。子どもは、双六が大好き！これは小さな子に限ったことではありません。楽しく、そして、内容についても覚えられてしまう双六を授業に使わない手はありません。本稿では1学期の歴史学習で扱う「参勤交代」を取り上げ、子どもたちが喜んで行った「双六で授業」の実践を紹介します。

2 津山藩の参勤交代絵図から読み取る

まずは、参勤交代に興味をもたせるために絵図の読み取りを行いました。黒板に参勤交代の絵図を張ると子どもたちは、興味津々でした。長い絵図の行列が1列につながっていることや、列には医師やわらじ持ち、鷹や鷹を扱う人を同行させたり、風呂桶やお膳など生活道具も同時に運んだりしていることがわかると参勤交代への関心は、一気に高まりました。

3 「東海道五十三次」を大名の気分で…

さて、では、旅の行程は、どうだったのでしょうか。それを、少しでも体感してもらえるように、



双六を使った授業風景

自作の「東海道五十三次双六」を子どもたちに楽しんでもらいました（児童の数は、10人）。

東海道は、ご存じの通り、江戸時代の主要な街道の一つです。京都と東京を結ぶ当時の大幹線を男女2人組の「藩」になって江戸を目指しました。

途中、「楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版」（以下、地図帳）を見ながらルートをたどります。駒のとまった地点では、教師側から補足的な説明を随時加えながらゲームを進めていきました（例：桑名宿：その手は、桑名の焼きはまぐり！香ばしくておいしいよ！岡崎宿：ここは、家康が生まれた場所。城下町として栄えた。ここの八丁味噌は、人気絶頂！將軍様にお土産ゲットだ！等）。次のような点は、とくに地図帳に着目させながら進めていきました。



『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.28

☆峠の記号や等高線の色からそこが険しい山道だったことを理解させる（国道記号の数字から道の重要性を感じる子もいました）。



同上 p.32

☆名所旧跡マーク（新居関跡や箱根関跡など）に着目させ、そこが歴史的に重要な場所であったことを知らせる。



同上 p.34

☆川の太さ（水色線の太さ）から川の大きさを理解させ、橋を使わず渡ることの困難さを想像させる（天竜川、大井川など）。

また、安藤広重の『東海道五十三次』の浮世絵を見せてイメージがわくようにもしました。

この双六を行うことにより子どもたちは、次のような感想をもちました。

*「おさむらいくんの せかいいっしゅうすごろく」（ひかりのくに）

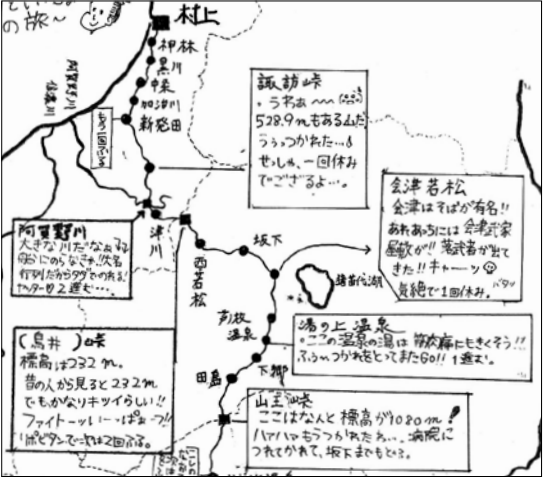
- ・関所での足止めや重い荷物を持ちながら歩くことなどすごく大変なことがわかりました。川があるとそこを渡るだけで疲れると思うし、大雨でも大変になることがわかりました。住んでいるところから江戸まで行くのは長い旅でした。
- ・大名行列は、ただの旅行ではなくて人や費用がかかって何日も旅する大変な旅行だということがわかった。何でこんな面倒くさい旅行をわざわざしなければいけないのか不思議。
- ・大名行列は、いろいろな所に行けたり、いろいろなものを見られたりするから旅行みたいでいいなと思っていたけど、関所があったり、大きな川があったり、絵を見たら、登るのに大変そうな山があったりして（箱根峠）、とても大変なことがわかりました。

4 子どもたち自身が双六をつくる

地図帳を見て、地形や記号等を読み取るスキルを身につけた子どもたちに、「村上藩」と「加賀藩」のどちらかを選択させ、双六をつくってもらいました。東海道五十三次双六での経験を生かしながら自分なりにアレンジして楽しい双六をつくって

いきました。つくる際には、インターネットで得られる情報も盛り込んでいいことにしました。

遊び的要素を多く盛り込もうとする児童もいましたが、地図帳を見て、地理的要素を取り入れつくられた双六がほとんどでした。峠に注目する子どもが増え、名産を地図帳から探し、それを盛り込む双六が目立ちました。親不知の地形図から土地の様子をイメージし、その苦勞をすごろくに描く子どももいました（もちろん、制作後は、みなで加賀藩・村上藩双六を楽しみました！）。



児童がつくった双六

5 おわりに

この実践を通して、子どもたちは、参勤交代の旅路を地図を用いたシミュレーション学習で楽しく理解することができました。また、双六づくりを通して、自分自身で地図帳を使いながら地勢を確認し、大名たちの負担についての理解も進めることができました。保護者にもやってもらい好評でした！